

令和元年度 門真市立市民公益活動支援センター 指定管理者総合評価

【評価対象年度】：平成30年度

施設のサービス水準の視点 コメント

市民公益活動に関連する情報収集に努めるとともに市内におけるNPO法人や市民公益活動団体との連携の構築に努められたことについて評価できる。

また、職員の親切丁寧な接遇を心がけ、施設の維持管理を運営することにより、利用者満足度向上に努められた結果、施設利用率の向上に寄与したものと評価できる。

収支状況 コメント

平成29年度に引き続き、平成30年度の収支が赤字となっており、収支のバランスを考慮した予算の計画的な執行が必要であったと考える。

しなしながら、指定管理として初年度の平成28年度の収支が経費削減の努力による大幅な黒字であったため、3年間の総収支としては黒字となっていることから、概ね適正に行ったと評価できる。

市による総合評価 コメント

指定管理として最終年度（3年目）である平成30年度は、過去2年間の指定管理者としての経験を活かし、中間支援組織として、市民公益活動団体の活動拠点を提供する役割を果たすため、市民公益活動に関連する情報収集に努めるとともに市内におけるNPO法人や市民公益活動団体との連携の構築に努められた結果、公民協働及び市民相互の協働の促進に寄与したものと評価できる。

また、利用者アンケート調査からも、多くの利用者から高評価を得ており、提供しているサービス内容も概ね協定事項等の水準のとおり運営されていると評価する。

以上の理由により、概ね協定事項等の水準どおり施設運営がされていると判断した。

総合評価

B

総合評価区分凡例

- A：協定事項等を上回る水準で施設運営がされ、大変良好なサービスが提供されている
- B：概ね協定事項等の水準どおり施設運営がされている
- C：協定事項等の水準以下であった